

研究成果及び活動一覧 (1999. 1. 1～12. 31) (五十音順)

- A : 著書、論文、書評など
 B : 学会での口頭発表その他の活動
 C : 講演、論説など
 D : 学術的調査

井上英明

- A : 1 (論文)「しほめるはなのいろなくてにほひのこれるかことし——『伊勢物語』古型の排列について」、『表現——目的と手段』(明星大学青梅校舎日本文化学部共同研究論集・第二輯、編集責任者小堀桂一郎、刊行責任者井上英明) pp. 121～143、3. 10.
 2 (論文)『伊勢物語』成立私考 第二稿——紀貫之との距離——、『明星大学研究紀要』(日本文化学部・言語文化学科) 第7号、pp. 1～13、3. 25.
 3 (書評) 秋山勇造『埋もれた翻訳——近代文学の開拓者たち——』新読書社、「神奈川大学評論」32号、p. 157、3. 30.
 4 (論文)「翻訳の問題」、「源氏物語の脱領域」『国文学』(学燈社刊) 645号、pp. 128～135、4. 11.
 5 (論文〈英文〉) Suematsu Kenchō in London (Japanese Literature in the 1880s: East and West, 44th INTERNATIONAL CONFERENCE OF EASTERN STUDIES, Tokyo & Kyoto, pp. 20～21、6.
- B : 1 (口頭発表)「明治十年代のロンドンにおける末松謙澄」、第四十四回東方学会議セミナー I. 国立教育会館、6. 5.
 2 西暦2000年とオーストラリア・ニュージーランド総司会、日豪ニュージーランド教師連盟セミナー、明星大学大学会館、12. 4.
 3 全国大学国語国文学会常任理事(学会運営、年間)
 4 日本文体論学会常任理事(学会運営、年間)
 5 日豪ニュージーランド教師連盟理事長代行(学会運営、年間)
- C : 1 『源氏物語——王鬘の巻——』を読む、「源氏物語研究会」多摩パルテノン、7. 20.
 2 「六条院の女主人公たち」、同上「研究会」多摩パルテノン、7. 26.
- D : 1 古文書調査、奈良女子大、薬師寺。10. 15～16.

牛村 圭

- A : 1 “Civilizations Seen and Unseen”, 『明星大学研究紀要』(日本文化学部・言語文化学科) 第7号、pp. 91～98、3. 25.
 2 「君子ニ三樂アリ——『今村均回顧録』の魅力——」、『表現——目的と手段』(明星大学青梅校舎日本文化学部共同研究論集・第二輯) pp. 208～238、3. 10.
- C : 1 「比較文学概論」集中講義、いわき明星大学、2. 16～19.

岡田恒雄

- A : 1 「四世鶴屋南北『東海道四谷怪談』における仇討ち批判」、『表現——目的と手段』(明

星大学青梅校舎日本文化学部共同研究論集・第二輯)、pp. 343~360、3. 10.

- 2 書評:「田中徳一・成恵卿・佐藤三武朗著『演劇は異文化の架け橋』を読んで」、『日本大学比較文化・比較文学第4号 創立10周年記念号』、pp. 163~167、日本大学比較文化・比較文学会、7. 25.
- B : 1 シンポジウム/パネリスト:「欧米文化と能」、世阿弥学会一第9回世阿弥忌の集い、足立区ギャラクシティー、8. 8.
- C : 1 明星大学歌舞伎講座「歌舞伎一女形の美」一歌舞伎演劇を通じての日本文化の教育コーディネーター(対談:4世中村雀右衛門/渡辺保、実演:中村京妙『鷺娘』)、12. 18.

加藤めぐみ

- A : 1 「オーストラリア文学に見る日本人像について」、平成9-10年度文部省科学研究費奨励研究(A)研究成果報告書、114 ps、3. 20.
- 2 「マドルルー:アボリジニ文学のジレンマ」、『南半球評論』第14号、pp. 16~24、3. 31.
- B : 1 オーストラリア・ニュージーランド文学会理事運営、年間。
- 2 日・豪・ニュージーランド教師連盟理事運営、年間。
- 3 研究発表:「オーストラリア文学に見る日本人のイメージ初期の作品から」、日・豪・ニュージーランド教師連盟・第1回オーストラリア・ニュージーランドセミナー、明星大学、12. 4.
- 4 研究発表:“The Scared Who Want to Scare: Fear of a Japanese Invasion in Australian Literature”, Complicities: Connections and Divisions: the 9th Biennial Symposium of Literatures and Cultures of the Asia-Pacific、シンガポール国立大学、12. 10.
- C : 1 講演:「オーストラリア文学に見る日本人像」、府中市生涯学習センター・国際理解セミナー、2. 10.
- D : 1 オーストラリア文学に見る日本人像について:第2次大戦まで:オーストラリア、キャンベラ Australian Defence Force Academy で論文レビュー、3. 12-21.
- 2 オーストラリア文学に見る日豪関係について:オーストラリア、キャンベラ Australian Defence Force Academy 及び National Library of Australia において資料収集、研究打ち合わせ、8. 1-23.

河野石根

- A : 1 「俳句の描写力一詩的直観性の凝縮相一」、『表現一目的と手段』(明星大学青梅校舎日本文化学部共同研究論集・第二輯)、pp. 174~187、3. 10.

古田島洋介

- A : 1 「日韓両国の漢文読解方式に関する若干の考察」、韓国比較文学会「比較文学」別巻〈第1回東亜細亜比較文学学術発表論文集〉、pp. 187~206、平成10年12. 15.

*2. 15. 受領。

- 2 「使役か仮定か——福沢諭吉『文明論之概略』の仮定表現」、東大比較文学会「比較文學研究」73号、pp. 24~38, 2. 10.
 - 3 随筆：「小倉泰君追悼文」、東大比較文学会「比較文學研究」73号、pp. 157~160、2. 10.
 - 4 翻訳：アーサー・ウェイリー『袁枚——十八世紀中国の詩人』[英語/共訳]、[共訳者] 加島祥造、平凡社《東洋文庫》650、381ps、3. 10.
 - 5 「漢文訓読表現の陥穽——『米欧回覧実記』第四十一~五十四巻を素材として」、『表現——目的と手段』(明星大学青梅校舎日本文化学部共同研究論集・第二輯、[編集責任者] 小堀桂一郎、明星大学日本文化学部) pp. 95~117、3. 10.
 - 6 「〈漢文訓読=欠陥翻訳〉論への反論——伝統的訓法に対する〈改良〉を駁す」、『明星大学紀要』(日本文化学部・言語文化学科) 第7号、pp. 83~100、3. 25.
- B : 1 学会/参加：第2回国際比較文学会東アジア会議に参加。メルパルク福岡、福岡市、6. 18.
- 2 学会/参加+司会：第61回日本比較文学会全国大会に参加、第二日の研究発表(C室：午前)の司会。福岡大学、6. 19~20.
 - 3 学会/発表+コメンテーター：第6回中国比較文学学会および国際学術研究討論会(8. 15~18)に出席し、第一日午後の第2セッションにて「関於漢文訓読体」[中国語]を発表、また第三日午後の第2セッションにてコメンテーター[中国語]をつとめる。中国：四川省成都、京川賓館第2会議室、8. 15+17.
 - 4 学会/発表：第4回東アジア比較文化国際会議(10. 15~17)に出席し、第二日第2分会场(K207室)にて午前11:00~11:30に「韓・中・日 三国の〈縁〉」を発表。大韓民国ソウル市、東国大学・学術文化館、10. 16.
- C : 1 テーマ講義：「英文解釈と漢文訓読」、東京大学超域文化科学：川本皓嗣教授「〈翻訳〉を考える」：第4回「訳読」論(2)、東京大学教養学部、5. 20.
- 2 講演：「明治初期の漢文訓読と『文明論之概略』」、慶應義塾福澤研究センター[主催]〈金曜セミナー〉、慶應義塾(三田)旧図書館2F会議室、10. 29.

小堀桂一郎(日刊新聞の論説、週・月刊雑誌所掲の談話、短文を除く)

- A : 1 (論文)「建武中興が問う国体の本義」、『祖国と青年』二月号(通巻245号) pp. 30~45、日本青年協議会、2. 1.
- 2 (論文)「隠蔽による表現」、『表現——目的と手段』(共同研究論集第二輯) pp. 258~286、明星大学日本文化学部編、3. 10.
 - 3 (書評) 坪内祐三著『靖国』、産経新聞朝刊、3. 13.
 - 4 (講演筆録)「靖国信仰の発祥について」、『神道史研究』第46巻第4号、pp. 2~24、神道史学会、3. 15.
 - 5 (論文)「世界史に於ける水戸学」、『明星大学研究紀要』(日本文化学部・言語文化学科) 第7号、pp. 55~70、明星大学日本文化学部、3. 25.
 - 6 (論文)「水戸学の近代性」、『地球日本史3』 pp. 197~214、産経新聞ニューズサー

- ビス、3. 30.
- 7 (講義筆録)「日本人はどう生きるのか」、『日本への回帰』第34輯、pp. 73~109、国民文化研究会、4. 10.
 - 8 (単行書)「鷗外訳『マクベス』稿本解題」、『鷗外訳マクベス稿本』別冊解説冊子 15ps. 雄松堂、4. 20.
 - 9 (単行書)『靖国神社と国体を考える』、46 ps. 全国護国神社叢書第一輯、全国護国神社、7. 25. cf. C. 5.
 - 10 (単行書)『昭和天皇』、363ps. PHP 研究所、8. 4.
 - 11 (論文)「無条件降伏といふ基本的誤謬」、『正論』9月号、pp. 84~94、産経新聞社、9. 1.
 - 12 (書評) 田中卓著『日本の国号、国旗、国歌』、神社新報 2523号、9. 20.
 - 13 (評論)「江藤淳『漱石とその時代』全五部」、『新潮』10月号、pp. 234~237、新潮社、10. 1.
 - 14 (単行書・共著)『靖国神社を考える』(共著者・大原康男)、32 ps. 日本政策研究センター、10. 10.
 - 15 (論文)「鷗外訳『マクベス』稿本」(A. 8の再録)、『ピヌス』48号 pp. 1~9、雄松堂、12. 1.
 - 16 (単行書)『国民精神の復権』、284 ps. PHP 研究所、12. 6.
 - 17 (論文・旧稿再録)「宰相鈴木貫太郎論」、「『諸君!』の30年」pp. 113~135、文藝春秋、12. 10.
- C : 1 (論説)「皇室伝統の光栄と日本人の幸福」、日本会議『日本の息吹』一月号、1. 15.
- 2 (論説)「今年は岐れ目の年」、『神社新報』2492号「主張」、1. 25.
 - 3 (講演)「国体の再生をめざして」、日本会議北海道本部設立大会、2. 11.
 - 4 (講演)「終戦工作の過程——日独を比較して」、防衛大学校、2. 18.
 - 5 (講演)「靖国神社と国体を考へる」、全国護国神社総会、3. 5.
 - 6 (講演)「国家について考へる」、海上自衛隊佐世保地方総監部、3. 16.
 - 7 (散文)「昭和天皇十年祭に」、『正論』四月号、産経新聞社、4. 1.
 - 8 (論説)「国旗・国歌法制化法案の行方」、『神社新報』2504号「主張」、4. 26.
 - 9 (講演)「靖国神社公式参拝実現に向けて」、正論を聞く集い、5. 15.
 - 10 (論説)「国家主権意識の再生を」、『月曜評論』1391号、6. 5.
 - 11 (講演)「森鷗外の翻訳文学」、北九州市市民公開講座、於小倉、6. 12.
 - 12 (講演)「国体とは何か——昭和史を手がかりに」、岩国水西クラブ定例フォーラム、6. 26.
 - 13 (講演)「誇りある国づくりのために」、日本会議大阪大会、7. 18.
 - 14 (論説)「教育施設としての靖国神社」、『神社新報』2515号、7. 19.
 - 15 (講演)「先帝陛下と靖国神社」、全国賀茂神社連合会、於京都下鴨神社、7. 21.
 - 16 (講演)「立憲君主制の道徳的性格」、薦の会、於水交社、7. 29.
 - 17 (談話筆記)「日本人にとって靖国神社とは何か」、『明日への選択』八月号、日本政策研究センター、8. 1.

- 18 (追悼文)「柔和と剛直と——小田村寅二郎先生を偲ぶ」、『祖国と青年』八月号、日本青年協議会、8. 1.
- 19 (散文)「淡水風景との因縁」、『桜梅通信』第135号、日華文化協会、8. 10.
- 20 (講演)「象徴天皇制及び国旗・国歌問題について」、マスコミ総合研究所八月例会、8. 23.
- 21 (講演)「昭和史をふまへて国家を考へる」、陸上自衛隊第十一師団第十一戦車大隊、於札幌、9. 13.
- 22 (論説)「新秋を迎へて些か抱負を」、日本会議『日本の息吹』九月号、9. 15.
- 23 (講演)「立憲君主制が生む国家の徳望」、日本会議静岡本部設立大会、9. 27.
- 24 (講演筆録)「立憲君主制の有つ道徳力」、『月刊日本』10月号、K & K プレス、10. 1. cf. C. 16.
- 25 (講演)「現代に見る君徳の恵み」、宮崎県神社庁総会、10. 6.
- 26 (対談)「なぜ日本をそんなに犯罪国家にしたいのか」(対談者小林よしのり)『正論』十一月号、産経新聞社、11. 1.
- 27 (座談会司会)「森鷗外歴史文学の魅力」(出席者、出久根達郎、森まゆみ)『図書』十一月号、岩波書店、11. 1.
- 28 (講演)「立憲君主制における君徳について」、日本会議神奈川本部御即位十年記念式典、10. 23.
- 29 (報告)国語問題協議会第四十四回総会、シンポジウム、パネル報告、11. 20.
- 30 (講演)「鈴木貫太郎の終戦工作」、神道時事問題研究会、於花園神社、11. 26.

佐佐木茂美

1998年

- A : 1 (論文)『散文トリスタン物語』への視点——二人の狩人=騎士とブラシェ犬の介入、『普遍文明と民族文化』明星大学青梅校舎日本文化学部共同研究論集、第一輯、pp. 92~125、3. 10.
- 2 (論文) Artus “as fenestres” et son départ “parmi la mer”. 『明星大学研究紀要』(日本文化学部・言語文化学科)第6号、pp. 205~214、3. 25.
- 3 (論文) “Etudes Françaises au Japon”, Table Ronde animée par Jean Mesnard à l'Association des Etudes Françaises, *Cahiers de l'Association Internationale des Etudes Françaises*, N° 50 (1998) pp. 44~47、10. 5.
- 4 (書誌) “Arthuriana au Japon,” (1974-1993)、『新村猛教授記念論文集』、名古屋、新村猛記念論文集刊行会、pp. 325~344、1. 10.
- 5 (研究発表要旨) Intervention de l'autre dans *La Mort le Roi Artu*、Bulletin de la Société Internationale Arthurienne, vol. XLIX (1998 pour 1997), p. 374、10. 7.
- 6 (追悼文) In memoriam Omer Jodogne (国際アーサー王学会ベルギー支部長)、*Studi Francesi*, vol. 121、1998 pour 1997, pp. 255~256、10. 5.
- B : 1 (研究発表) L'image canine du *Roman de Tristan en prose* à Brunetto Latini, 60
(89)

第9回国際宮廷風文学会 (Société Internationale de la Littérature Courtoise), Canada, Vancouver, University of British Columbia, 10. 7.

- 2 (司会) : テーマ「宮廷文化における雅びと courtesy の比較」、(Oxford 大および Univ. of British Columbia 大教授発表)、国際宮廷風文学会第9回総会 (Société Internationale de la Littérature Courtoise), Canada, Vancouver, University of British Columbia, 10. 7.

1999年

- A : 1 (論文) Anel et Seel : de Béroul et du *Lancelot au Roman de Tristan en prose*, in *Miscellanea Medievalis, Mélanges offerts à Philippe Ménard* (国際アーサー王学会会長)、tome II, Paris, P. Champion, pp. 1203~1212、1. 26.
- 2 (論文)「人間は樹木のごとく…」——樹木の伝説・聖杯の伝説——、『表現——目的と手段』、(明星大学青梅校舎日本文化学部共同研究論集、第二輯)、pp. 144~173、3. 10.
 - 3 (論文)「人間は樹木のごとく…」(II)、樹木と二人の旅人、『明星大学研究紀要』(日本文化学部・言語文化学科)第7号、pp. 206~218、3. 25.
 - 4 (論文)「人間は樹木のごとく…」(III)——樹下の従姉たち——、『神沢栄三教授記念論文集』(Plume III)、名古屋大学、文学部、pp. 13~21、3. 31.
 - 5 (論文および報告)(文部省科学研究成果報告書)、pp. 1~76、3. 10.
 - 6 (論文) Tristan et ses / les "brachets" dans *le Roman de Tristan en prose*, in *Miscellanea Medievalis, Mélanges offerts à François Suard* (国際叙事詩学会(名)会長)、tome II, Lille, Ed. du Conseil Scientifique de l'Université Charles-de-Gaulle, Lille 3, pp. 821~830、9. 25.
- B : 1 (司会) : テーマ「merveilles (驚異)」(Sorbonne 大教授他)、国際アーサー王学会第19回総会 (Société Internationale Arthurienne), France, Toulouse, Université de Toulouse Le Mirail, 7. 27.
- 2 (研究発表) Apollon et son lévrier, 国際アーサー王学会第19回総会 (Société Internationale Arthurienne), France, Toulouse, Université de Toulouse Le Mirail, 7. 28.

佐々木滋

- A : 1 「G・C・リヒテンベルクのアフォリズムスをめぐって」『明星大学研究紀要』(日本文化学部・言語文化学科)第7号、pp. 15~24、3. 25.
- 2 (翻訳)「納屋で着替える旅回りの女役者たち」『明星大学研究紀要』(日本文化学部・生活芸術科)第7号、pp. 11~21、3. 20.
- D : 1 ヴァイマールでの Stiftung Weimarer Klassik 主催「Goethe-Philologie im Jubiläumsjahr-Bilanz und Perspektiven」に8月26日~27日(1999年)参加。
- 2 フンボルト大学ドイツ文学研究所とベルリン・ポーランド文化研究所主催の「罪と贖罪-戦後(1945-1961)のドイツのメディアにおける戦争体験と戦争解釈」に9月1日~9月4日(1999年)参加。

柴田雅生

- A : 1 「二つの「送り仮名」、『明星大学研究紀要』（日本文化学部・言語文化学科）第7号、pp. 47～53、3. 25.
- 2 「神田本白氏文集における付訓の記載位置について」、佐藤武義編『語彙・語法の新研究』、pp. 59～72、明治書院、9. 20.

正慶 孝

- A : 1 「エコノミー、エコロジーそしてエシックス」、『明星大学研究紀要』（日本文化学部・言語文化学科）第7号、pp. 71～81、3. 25.
- 2 「ファウスト的文化と『経済時代』の終焉」、『表現一目的と手段』（明星大学青梅校舎日本文化学部共同研究論集・第二輯）pp. 7～36、3. 10.
- 3 「経済学する生活者」（「セールス・ノート」1月号から6月号まで6回連載）
- B : 1 「文明の衝突」か「文明の混淆」か（地下経済研究会研究発表、日本大学経済学部、4月24日）
- C : 1 （講演）「新しい経営者・管理者」（産業教育センター、4月16日）
- 2 （講演）「環境・エネルギー問題」（青梅市民大学講座、4月19日）
- 3 （講演）「三人のユダヤ人」（ししの会、千代田区五番町、7月28日）
- 4 （対談）「平成幕末——日本改造への〈方法序説〉」（藤原肇氏と対談、「財界にっぽん日本」7月号）
- 5 （談話掲載）「日本の家庭婦人がティンエージャーに関心を持つ」（AFPを通して世界各紙に配信、日本ではDaily Mainichi, March 17. に掲載）

林 雄介

- A : 1 書評：松本武祝著『植民地権力と朝鮮農民』、『神奈川大学評論』、第32号、pp. 160～161、神奈川大学、3. 30.
- 2 「一進会の後半期に関する基礎的研究——1906年8月～解散」、『東洋文化研究』、第1号、pp. 265～296、学習院大学東洋文化研究所、3. 31.
- 3 「運動団体としての一進会——民衆との接触様相を中心に」、『朝鮮学報』、第172集、pp. 43～67、朝鮮学会、7. 26.
- B : 1 シンポジウム／パネリスト：近現代韓日関係の展開と21世紀、歴史問題研究所（ソウル）主催、韓国放送通信大学、9. 11.
- 2 書評：柳永益著『東学農民蜂起의 甲午更張』、朝鮮史研究会関東部会月例会、専修大学、9. 18.
- 3 朝鮮史研究会幹事、年間
- D : 1 近代朝鮮の親日団体につき、大韓民国国立ソウル大学校・国立中央図書館・国立国会図書館等にて関係資料収集、9. 12～16.

秀村研二

- A : 1 「受容するキリスト教から宣教するキリスト教へ——韓国キリスト教の展開をめぐ 58
(91)

- って』、『朝鮮文化研究』（東京大学大学院人文社会系研究科・文学部朝鮮文化研究室研究紀要）第6号、pp. 95～107、3. 10.
- 2 「儒教と巫俗のあいだ——韓国社会におけるキリスト教——」、『宗教と社会』別冊（「宗教と社会」学会）、pp. 43～48、3. 1.
 - 3 「牧師と教会——韓国キリスト教の独自性——」、三尾裕子・本田洋編『東アジアにおける文化の多中心性』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、pp. 215～232、11. 30.
- B : 1 「位牌を用いない祖先祭祀——韓国社会と儒教」国立民族学博物館共同研究会『『もの』から見た朝鮮民俗文化』（代表：朝倉敏夫）、12. 11、於国立民族学博物館
- D : 1 両班社会及びキリスト教に関する調査（大韓民国ソウル市、京畿道高楊市）、3. 18-29.
- 2 別神祭調査（大韓民国慶尚北道迎日郡清河面清津2里）、4. 16-20.
 - 3 延安李氏不遷位祭祀調査（大韓民国京畿道加平郡加平邑）、6. 11-13.
 - 4 韓国の地方文化運動の調査およびキリスト教の調査（大韓民国全羅南道珍島郡、ソウル市、京畿道高楊市）、8. 20-9. 2.

深澤 清

- A : 1 「Seamus Heaney's Dream of Restoration」、『明星大学研究紀要』（日本文化学部・言語文化学科）第7号、pp. 99～107、3. 25.
- 2 「アイルランドに想いを寄せて——ワイルドとイエイツの場合——」、『表現——目的と手段』（明星大学日本文化学部編）、pp. 188～207.
- B : 1 日本ワイルド学会 幹事・書記（通年）
- D : 1 アイルランド Trinity College Library、Irish National Library で資料調査、8. 21～29.

丸山正義

- A : 1 「『タイスの瞑想曲』はなぜ官能的か？」『表現——目的と手段』（明星大学日本文化学部共同研究論集第二輯）pp. 361～386、3. 10.
- 2 「ノスタルジーの形式」『三田評論』3月号、慶應義塾、p. 39、3. 1.
- C : 1 「オペラに行こう！」明星大学青梅キャンパス公開講座第15回、11. 6.

矢野浩三郎

- A : 1 編・訳：レイ・ブラッドベリ他『監視者』『恐怖と怪奇名作集（児童向け翻訳短編集）第5巻』、岩崎書店、158ps、2. 15.
- 2 編・訳：ロバート・シルヴァーバーグ他『墓場から帰る』『恐怖と怪奇名作集 第7巻』、岩崎書店、154ps、4. 15.
 - 3 編・訳：ヘンリー・カットナー他『吸血鬼』『恐怖と怪奇名作集 第8巻』、岩崎書店、155ps、4. 20.
 - 4 編・訳：ロバート・ブロック他『猫の影』『恐怖と怪奇名作集 第6巻』、岩崎書店、

- 158ps、4. 25.
- 5 編・訳：ベン・ヘクト他『死のなかばに』「恐怖と怪奇名作集 第9巻」、岩崎書店、158ps、4. 25.
- 6 編・訳：フリッツ・ライバー他『けむりのお化け』「恐怖と怪奇名作集 第10巻」、岩崎書店、158ps、4. 30.
- B : 1 研究発表：「翻訳者は裏切り者」、JST（日本翻訳者協会）月例研究発表会（芝青年会館）、4. 17.
- C : 1 連載コラム：「翻訳者は裏切り者」、『西日本新聞』、西日本新聞社、日曜版（読書欄）に連載、1. 10、17、31、2. 7、14、21、3. 7、14、21、4. 4、11、18、5. 2、9、16.
- 2 随筆：「やっぱりキングとバーカーだ」、『青春と読書』8月号、集英社、pp. 14～17.

山下善明

- A : 1 「言葉、それ自ら表現するもの」、『表現——目的と手段』（明星大学日本文化学部共同研究論集・第二輯）pp. 60～94、3. 10.
- B : 1 「アルムブルスター先生の空間」『上智大学哲学会だより』第69号、pp. 5～6、6. 1.
- C : 1 「昭和四十五年十一月の死——西方からの或る追想」、『日本及日本人』新春号 pp. 47～57、1. 1.
- D : 1 ドイツ語に見る哲学的言語の分析、上智大学アルムブルスター研究室、6月末日までの毎週木曜日。

和田正美

- A : 1 「日本語の文章——四つの『文章読本』をめぐって」、『表現——目的と手段』（明星大学青梅校舎日本文化学部共同研究論集・第二輯）、pp. 37～59、3. 10.
- 2 「文章の作法に関する一つの考察」、『明星大学研究紀要』（日本文化学部・言語文化学科）第7号、pp. 35～45、3. 25.
- D : 1 日本文学・日本文化の大陸的背景について：中華人民共和国西安、成都、上海の各市において現地調査、7. 20-7. 27.
- 2 台湾における日本語文献について：中華民国台北市の中央図書館と台湾大学図書館において資料調査、10. 31-11. 3.

万恵洲

- A : 1 「漢語対欧化的語法選択（中）」『明星大学研究紀要』（日本文化学部・言語文化学科）第7号、pp. 77～90、3. 25.

平成 11 年：日本文化学部合同研究会（任意参加）が以下の通り開催されました。

第 9 回：主題「大学における知 過去・現在・未来」 1. 26.

発表者：秀村研二（一般教育）「誰のためのカリキュラム改訂か」

岡本文一（生活芸術）「生活芸術学科のカリキュラム改訂から」

日本文化学部研究棟 2F：日本文化学部長室（N-209）

第 10 回：主題「〈手〉による表現——想像の世界から現実の世界へ」 6. 1.

発表者：高橋 紘（生活芸術）「湯呑みについて」 * 実習試作を含む

日本文化学部研究棟 3F：生活芸術学科主任室（N-321）

第 11 回：主題「東西の相克」 7. 27.

発表者：田中 敏（言語文化）「日本の歴史観とドイツの歴史観」

日本文化学部研究棟 4F：参考図書閲覧室（N-421）